



中村俊定文庫
文庫 18
371



麥浪亭撰

(宣曆十年)

庚辰

試書



〜ハ 社中よつねの歌を

記まはすもちつねを孫く

百部と〜あきゆれ



夾浪亭

杜若

〜

つねや
枝よあけ日と

歳旦

題門松

日次連中

是くまゝ差面ふ一川の如 温故
 二階まゝ積く借鏡の如之
 づねや目も度もればしらま 巴音
 若くは子もあゝつてくつの中 東皇
 川堂や陽の光も影も祖文と祖母 菊茂
 づねや常盤松も常盤松 二臣 曾呂
 川ねや陽の光も影も枝乃乾 楚二
 舟の坂の如く葉や川流 雲 東湖
 舟の如く葉の如く舟の如 雲出
 富士の如く葉も川も川も 畔古
 福の如く葉も川も川も 益淨
 船も舟も舟も川も川も 寸堂

づねや人の如く舟も川も川も 麦鳥
 づねや川の如く舟も川の如く 素道

題川 日次 連中
 雲舟

舟の名は舟も川も川も 寸堂
 葉は舟も葉も舟も川も 麦推
 舟も舟も舟も川も川も 芦帆
 舟も舟も舟も川も川も 為淨
 舟も舟も舟も川も川も 程夫
 舟も舟も舟も川も川も 茶菊
 舟も舟も舟も川も川も 有雪
 づねや親の如く舟も川も 祐古

つねや樹のらきき 鳴鳥 駢古
晴ハ人々ききハつたれ 烈歩
松の房町く又るのの雪 士普
雪のまじりぬもあまのつね 星圭
在一ツ房のけしやふの夜雪 云歩
田そのハ人々ぬもあまのつね 和栗
つねやと箱百のあまのつね 松平
田のまじりぬもあまのつね 百山
富士のあまのつねはこ保やつの雪 丸耳
つねやとまじりぬもあまのつね 桐申
雪のまじりぬもあまのつね 素道

歳旦 新頭舎連中

古林紫の道見と都工探く

山饅

常盤木の山もあまのつね 初日の心 杉支

米俵

えりやと人々のあまのつね 柳湖

御蓋

山差や神もあまのつね 初日敷 星雨

釜

釜のまじりぬもあまのつね 初日敷 楚舟

巻柱

初日やえとまじりぬもあまのつね 柱立 湖東

猫足

何れをよもほきやゆけつものね 初二

風もそや吹きあり 川原堂 其士

家くそよ子よあくるつねに 塘又

紫を先やとす 龍溪も水の玉 解梅影 思丸

題作并梅

心重やかよ梅よき人そは 杜什

かきり并 雲一日の敷 屋敷 全

十と具

汗何よの枝にも 一つ梅はむ 全

お針よゆりくわくむのをとまよ

あけけいりよ此座を也 神はま 花莖

由路と先覚より 初 ちうみ 丘之

つねや丁度朝日此まきん 右産

川堂やまを此よまのり 之聲

杉亦此歌くさ、まよるゝめ 権雨

さほりきく流と川の流又く此
ま化もよきかうきめまをり
くろえと此心いれりた人元く
る雨二日のまをねんけけと他人
のぬまかい

あま玉此歌子 底まうと物のを 普靜

卯の子まをわりくやと新子
之朝のまをさよふはまよ日ん
新 ちり

考此温ぬもやや日此はしめ 春水 冬羽

子とも此る身よ除此ぬ人
をんく心もいさ

まじ方の杖もふまや惜弁 全和水段
えりや誰も吉舟もふらなほ 全 可及

中外

やとくすく朝日白ふやむゆ 丹生 乙竹

中儀やーをを祝ーく

松坂

まらや彦も羽そのそ日此也 素友

四寸此あひの吹その秋京因 桑園

中入の海と之ぬ京此吐ーく 左滴

良松も雪とに彼也竹の吹云

ふわのーわの海もよま此の

是化も月の象ましか

洛 三居庵

湖月より書るうさー 初日のも 飛良

題吉書 老州田原 離下亭連中

旅毛の乳房うそやまはーめ 麦二

村鳥双帝に鳴く 東雨

清い海と波は此や羊一りめ 曾代

そも浪向のうらそまはーめ 兔向

白もよえう流も首 為之

中儀

掬まはーも入るや初も水 吉田 孝成

全

上州前橋連中

居共横に破新や海湖の玉此也 芦花庵 露江

まらつた新も物その代 利水源 桑成

とこの初く細雪のそ舞よかりく

川の戸を閉や伊勢此をの 花義

あつたる方隈のつと初日此も 麻人
梳髪此を地々くを花此も 素輪
幸海下増止る西下明の青 八角

全

まらつた頃とくは遊子むれも 上州伊勢崎
全角

元日

讃岐三本松連中

栞下も白ひよりけりけりけりけり 乙鳥
麦粒三つ

長茶茶枝もつるは 一女也 嗽石

白く雪を先暖や毒れむ 撫松

稚子も待たれく多し 初日也 沽哉

新しき日と標れ死るる 藍水

初日や字も及ぶとのふまへく 文清

青柳や舟に宿るす之安 柳丈

八日

春此指ひくき此より草子也 櫻良

五真

柳下や酒臭き人も生あり 者吾

梅此むすし終り 忌重く如 東慮

投入く松此何き松 菊之

そやそこへとそよ枝へ 一和 曾丸

まけ入るこの多しう宿れ柳 蘿文

全

明くはぬ柳子れ新や後身 家成
右布

味はをたぬ人あり 初栞 慶丈

春興

東武
三軒庵月次連中

水菜屋もゆきや新此頃くさり 古河城 古道
 動くまゝくそくはるる板くは 老梅
 武家神や好何と志らハる庭 琴堂
 経が茅子汁もふし 糸柳 三木
 此如くく結テと初冬や柳の毛 花明
 雪や此試柴中より藪此内 滑月
 結んとも思はるる糸柳 魚咏
 立身く尺の韻 狩り板くは 鳳吹
 庭よ此頃く初冬や雪菜つゝ 涉波

冬やうに下へく雪 板くは 仙泉
 雪や雪此頃くく 板くは 花浄
 山いささ雪 隔日ハ此此多し 不狂
 雪板やまゝくは 雪板月の日 遜志
 此頃くく結テとく 梅乃花 世味庵 竹外
 冬 冬真 飛州高山連中
 此くまきぬと此流るる子のりい 兔未
 やり木の雪くくは 雪 宇好
 雪や一枚 汲くく水 文鏡
 雪雪や雪くくは 雪 南浦
 雪や雪此頃くくハ 初冬 弁茂
 初くは雪くくは 板くは 眠呼

慈母ハ人同ニ老シテ其苦ツコ 芳斗

五具 武州修業 布袋庵連中

漏柳ノ樹ニ見テ孤ノ乳 柳儿

懐ノ音カウヒ也 耶 惟山

昔此雨ニ宿ル風信ニ 梧生

空ニ云々ノ望ミテ其心 兔陵

春具 江都 石炭庵連中

多此此為之の寂々 初方久 壹牛

昔や日にく懐く亦 南川

文字云々之の欲備ハ 如林

昔や此亦人此 花溪

阿ノ秀ヤ見テ之 深負

昔やや之 百弁

分入とは寂の 羽檣

昔やけく 西林

富士に之 鳥明

空に子ノ宿ニ 左明

五具 讃州丸連連中

引のり系や板此 渭羞

十日外も 杜草

を同よハ 麦支

物嘆中 平疇

曉秋を西のくく啼蛙の柳 林鳥
露のくくをいぢるや 街 月 杜帆

老具 豊後杵築時之庵連中

昔にまきまきいぢ 吹まきく木葉 葉里
草のむかしの草を輝を裏へけり 素流
道草を喰もくめりや 昔草の日 又溪
余の子をそやいまの草の乳 斗園
志すく昔むまわり 柳細 苑鳥
そのれまきよふらを望むは 友之
隅のまきよふらを望むは 知橋
吹あけの原をくくよ 可水
埋まきくむよ秋の鳴く蛙の乳 浮石

蝶のくく日にもよまきく昔の柳 栗丸
雨の日に柳をよけむ柳の乳 可由
そやの柳をよけむ柳の乳 扇風
是れは床くけよ柳の乳 竹茂

全

新くまきく障りれ 子夜丸 津 民古
昔もあけくかぬの柳の乳 隣付 全
まきれまきれまきれ 柳の乳 二目坊 全
引舟とけりまきれ 柳の乳 家城 子敬
此のけりまきれ 柳の乳 上州前橋 露汀
柳のくくまきれまきれ 柳の乳 八角 全
山崎や柳も片神の乳くくり 越後水原 山鳥

引号く冷と花やまは此白 全 方舟

水くまも褪れまきみ極る 全 箕山

蝶まゝぬ方も煙くとも苦女摘 駿州岡走 杜泉

雪や川流しはいまもあそび 遠州釘沖 演之

まののけろまろふくもあつ 東武 三杉

雪や空吹消しくり 武州崎原 芦船

約きや極此ら場も白ふ 全 夏考

雨くれと雪も物や 東武 巴鷲

雪り乃く富士と結る 上総 花枝

雪此初歩踏ふや 常州 山紫

雪流と雪も情まぬ 全 漂水

雪此雪入もわり 全 雪友

常盤木の緑は冷此 し 睡

雪初と極を風吹く

一踏し白い 杜 帆

まをう 鼓 柁

えりや 未 柳

雪の雪は 柳 雪

雪此尾 柳 雪

雪の雪は 柳 雪

雪と 芭 人

雪 市 妹

雪 麦 浪

と真

まを柳や織女れ新のぬ糸れま 柳平

糸れまやましくれむ煙そりる 麦州

不惑とやいれまを正しく

老と見ゆるまを〜やまのふの 津 素因

〜いふく同も交を正しく 久居

まをの尻と膝や 糸柳 信州岩村田 寸霞

まをもれおくれいこそ 川れね 鶏山

と真

まをいふくさぬまを柳れむ 津 槿馬

まをのまわりらんまを柳れ 全 素因

柳まをや煙掃便の柳まを 讃州落羽 芝友

歳旦

文川此考

燕雀亭連中

まをのまをいふくまをまを 巴音

まをの考

まをのまをいふくまをまを 野々

まをの考

まをのまをいふくまをまを 素波

まをの考

まをのまをいふくまをまを 友加

まをの考

まをのまをいふくまをまを 芦朝

まをの考

うぐいすの柳子 洞や舌鼓 吐風

北山門の号

号や 初方をしきまけくら 桂子

又十燈川の号

号れ 初方を佳し又十燈川 九江

鏡石の号

号の多きと里々すかみ石 東南

政部の号

号や 木々々 依はるゝ 雨圭

葛原の号

号は 石々々 歩ゆぬ 初方の 俚桂

女字の号

女字の多きと 續くやまを云々 其什

小中後川の号

号や 碓氷の保の 中流心 野節

溪荻の号

号に 石を記す 産れく 芦花の 文羽

二見浦の号

号も 石を待 ぼりり 月日 貝 百重

中流の号

号に 石を記す 産れく 初日 後州吉原 古文

年内立春

猿月中旬より 春を記す

候つるや隣のをと多し 合 曾呂

候はるや實れ山もよきまゝ 楚二

くらつきん校れ草や梓れ教 東湖

候はるやあつと櫃に録もふく 步出

候橋口植をさよも亦さよも 畔古

候つるや内と混沌れ白の中 麦鳥

題餅搗 日次連中

明るれ海に頂もや解の身 寸童

候つる高士も占よ一善人 苦帆

候とともゆさふ一候れ身 麦推

候橋や身もかきく候隣も 為淨

かりきやれれ裏匠を司も 程丈

おのふれ草子奥ありまれ身 普靜

者くふれ味と身やとくすれ 丘芝

貴人よ教ありけや柳 貴 三登

題厄拂

西の南れ底さたりや厄つら 南畝

候きくきん宮と柳や厄もふ 丸取

上平尾 一志那連中

手志れ竹具と味の歌と配く

大食噺

男は腹よくき名や身志 射石

学文噺

侍らぬおとやこしれ身 飛泉

此の例 瀬しきり中條此房 鳥詞 春水
養ふ所も 藤樹のうら 全 の芳 全 丸夕
此れも 二十又柳や 年此芳 全 可及

全

讃州高松

去を 詩公此室や とき 去禾
眾科も 川へ流すや 録拂 全 羽羽 李泉

全

讃州三本松連中

才掃や 馬い 蟹いも かつ 好道
を こ 水の 境や 大之十日 文滂
此 こ や 産を 見とく 藍氷 藍水
貯 さ や ない 宇 う の 雲 沽哉
隠 破 き れ ぬ ぬ 此 湊 い 極松

見 み へ へ を を 於 を 免 を や を の 坂 嗽石
この 板 い や 卵 い 玉 い 乙鳥

全

讃州丸亀連中

秋味 の 語 い も い 自 い 此 波 杜帆
依 城 い 此 詩 い の 考 い 杜草
一 い 留 い 此 日 い 決 い 一 い 麥 い 支
寄 い 折 い 此 い 名 い 一 い 平 疇
一 い 吹 い の 身 い 此 い 古 磨 麦川
高 い 叶 い 此 い 雨 い 峰
雪 い の 此 い 泉 い 一 い 滑 菱

全

讃州与田山

雪 い 此 い 山 い と 見 い 此 い や い の 融 桐谷

題年市

冬州羅下亭連中

梅本屋も初更子日まきの市 妻二

人の目もとんぬ能きや年市 爲之

是れはハカシの告れやの市 兎向

お徳に子初日うほさんよ此市 曾代女

破る子に人此子やの市 東雨

併むや嫁れ愛あはまてて 李成吉田

この考は、いさくきせをかしく

師を学ぬるや梅子の年此内 杜鳥冬州三川

師をの考と教せんを志しき

こよりいとまをくけり画張

五々々々

此考考此考の具やの波より 麦路全

自れ草掃くもりや赤弁契 丸湖全

の年考

初更や考此考とまき 坂川江都 社康記 全

白角よまきゆもまきとまき 左枝武州崎本

能直此まきとまき初まき 惟山信州岩村田

おりり一依よる女の子は赤 鷲山信州松本

表此方の標買んまきとまき 荻翁遠州

叶るりやう摩年此まきの旅の初 演之常州

よ此方の標ともまきとまき 後丘

三十年の此ゆゆと文はくまふ

まきゆゆとまきとまきとまき

まきゆゆとまきとまきとまき

いこの麻くまきと問子や大之十日 素因津

歳暮

夜にやまや此種人古より
深し其あり予も此の如
しうも屏子ほくもるとい
杯中此一滴もくけさる此癖
あり只甘きものよ茶を喫
よと志すなり

茶の香くく岩初白くは志 麦浪

追加

春興

東武

吐花樓

秋扇

冬

制札きりて

校りて

在具

東武

守黒庵

松籟庵

連中

日此穀子わくわく揃いのふん 殊凡

昔や昔も歩けりむ先此や
三巴

くふしや海此津もまきまきの
巨釣

貴もいふぬ人何もまきまきの
飛来

昔や序もいふ此方と入る
抱雪

昔や古桑此かす玉羽
東洲

物まや曾解りま桑桑の物
家人

まのう葉此かぬ家と移る
芋字

一まよ同此吹も玉柳
蕨村

川方此日にくらり
桃之

昔や海織りも
左右

川田も海織りも
柳之



